

病院の停電対策

岩美病院事務室 庶務係長 松本 邦裕



今年3月の東北地方の大震災、またその後の原発事故で大規模な停電や電力調整による計画停電がありました。現在の病院には電気を使用する医療機器をはじめ様々な機器設備があり、停電が命に関わる場合もあります。

今回は病院の災害対策設備の中で停電対策、電気コンセントについて紹介します。

病院の電気は、通常時は一般家庭と同じく電線から供給を受けています。少し違うところは、2系統の電線から供給が可能で1系統が停電になった場合でももう1つの系統からの電力を受けるような仕組みになっています。

また、電線からの供給がない時には、灯油燃料による非常用自家発電機で電気を供給するようになっています。

病院の電気コンセントですが、3種類のコンセントがあります。

1 白色のコンセント

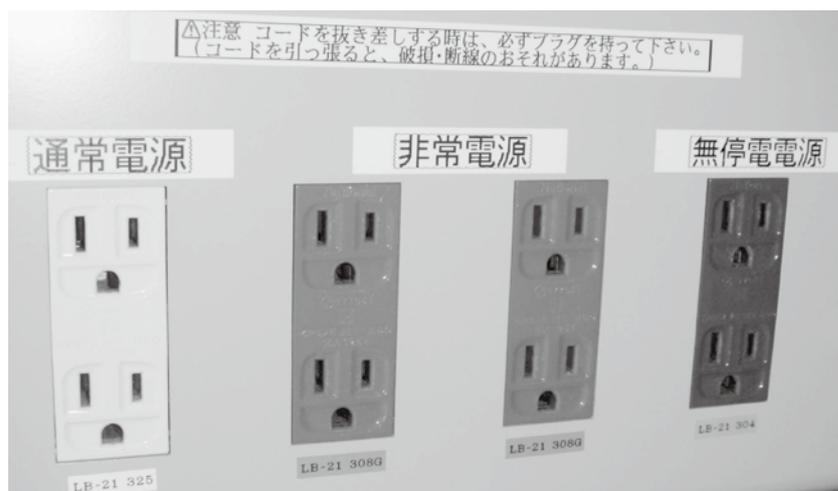
これは、一般家庭のコンセントと一緒にです。停電になると使用できなくなります。

2 赤色のコンセント

これは、病院が停電になると非常用自家発電機が作動し、停電時でも使用できます。

ただし、非常用自家発電機が作動して通常の電力が使えるようになるまでに40秒程度のタイムラグが発生してしまいます。

このコンセントは、おもに通常の診察や治療に必要な医療機器、電子カルテなどに使用しています。



3 緑色のコンセント

これは、無停電対応のコンセントです。無停電装置（非常用バッテリー）に接続されていて非常用自家発電機に切り替わるまでの間、バッテリーで電気を送ります。そのため、全くタイムラグは発生しません。

このコンセントは、機器を止めてはいけない人工呼吸器などの医療機器に使用しています。

医療の進歩により診察や治療に使用する医療機器それに伴う電気需要も多くなってきていますが、コンセントを使い分けることにより、非常時でも十分な診察、治療ができる体制を取っています。